

- ① 教材案の見開き頁の左上にある「薬害ってなんだろう?」「どのようにして薬害は起こるのだろう?」「薬害を防ぐにはどうすればいいのだろう?」というテーマは、この教材で何を学ぶのかが分かるので、教材として大変良い問いかけになっています。テーマは原案通りでいけばよいと思います。また、右上に学習のポイントがあるのも学びやすいのでよいと思います。
- ② P3-4の「どのようにして薬害は起こるのだろう?」については、現在、事例が二つありますが、新採用から5年目までの先生方が増えているので、教える側も薬害について詳しく知らないため、事例として取り上げる薬害については詳しく内容を示した方がよいこと、また、文字資料だけでは生徒も理解しにくいのでイラストや図表を入れた方がよいと思いますので、事例を1つに絞った方がよいと考えます。その際、サリドマイドとHIVのどちらかを取り上げるとすると、審議ではサリドマイドを取り上げる意見がありましたし、また、HIVが教科書でも取り上げられていることから、サリドマイドの方を推薦します。もちろん審議の中でHIVの方が良いと言うことであれば、こちらでもかまわないと思います。

なお、学習指導の順番から言えば、P5-6に記載されている被害者の声は、P3-4にある方がよいと思います。P3-4の学習のポイントには「被害が社会にどんな影響を与えたか」とあり、社会的な影響として、多くの被害者を生み苦しみを与えていることをP3-4で示した方がよいと考えます。
- ③ 社会科の教材としての特色は、社会の仕組みや在り方について考えるところにあるので、P5-6の図を大きくし、それぞれの機関の働きを解説し、それぞれがうまく機能することが薬害防止に近づくことが分かるようにすべきだと思います。そして、各説明においては、「消費者」は自律した消費者、消費者主権という内容を、「医療機関」はインフォームドコンセントの内容をわかりやすく、「製薬会社」はコンプライアンスや社会的責任という内容を、「国の機関」は公益代表としてチェック機能や救済を果たすという内容を解説することが必要だと思います。この図を概念モデルとして、社会の仕組みを考えるというのが社会科学習といえるし、学習指導要領の解説にも即しています。
- ④ 全体的な感想としては、やはり一次資料的であり、力のある教師は授業化できると思いますが、新採用から5年目までの教師にとっては使用が難しいと思われます。中学生にとって難しい単語が多く文字数も多いので、危惧されているように生徒が敬遠するかもしれません。そのため、図やイラストももう少し必要かと思います。教える側、学ぶ側にも配慮した教材という視点が必要です。

以上ですが、社会科をこれまで担当した者としては、上記③が社会科学習の基本となりますので、③が薄まるとどの教科の教材かが明確にできないと思います。ご検討ください。